

令和7年度(2025年度)図書館の主な取組について

図書システムの更新について

『熊本市図書管理システム』

【現行システムの概要】

熊本市立図書館を中心に図書館分館、プラザ図書館、公民館図書室など22ヶ所とネットワークを構築し、利用者管理や図書資料の検索・貸出・予約、電子図書館サービスを提供する。

さらに、熊本市立小中学校の学校図書管理システムと連携し、図書館カードを持たない小中学生であっても図書資料を利用することができる。

(令和6年度実績)

蔵書冊数 1,664,554 冊

登録者 297,396 人

貸出者数 823,325 人

貸出冊数 2,750,250 冊



【次期システムの構築状況】

令和6年11月に次期システムの構築契約を締結し、8月に操作研修、8月から9月に端末の入れ替え、9月下旬に10日間の臨時休館を経て、10月1日に運用を開始する。

【次期システムでの新機能】

現行のシステムに加え

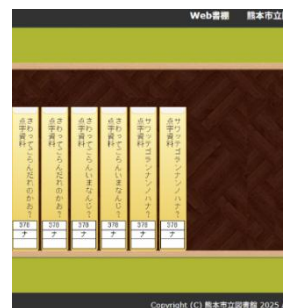
- ・利用者がスマートフォン、タブレット端末を使って図書館のウェブサイトへアクセスし、画面に図書館カードを表示できるため、カードを所持していなくても図書の貸出ができる。
- ・スマートフォン等から、図書館カードの新規申込や更新が可能となる。
- ・利用者のポータルサイトで目標冊数を設定する読書チャレンジができる。
- ・Web 書棚が利用できる。



図書館カード



読書チャレンジ



Web 書棚

近隣市町村との図書館相互利用について

1 図書館相互利用の概要

現在、平成28年3月から令和7年3月までに熊本連携中枢都市圏の形成に係る連携協約を締結した市町村23の内、図書館における圏域住民の相互利用に参加する市町村は、本市を除き18市町村である。

2 近年の状況

平成28年3月に連携中枢都市圏の形成に係る連携協約を締結した宇城市と令和6年2月に図書館の相互利用を開始した。また、令和7年3月に連携中枢都市圏の形成に係る連携協約を締結した荒尾市、長洲町、和水町、南関町のうち、南関町を除く荒尾市、長洲町、和水町とは、令和7年4月1日から図書館の相互利用を開始している。4月からの相互利用に参加しなかった南関町については、令和7年10月からの南関町立図書館のリニューアルオープン準備中のため、リニューアルオープン後の11月以降の相互利用で協議中である。なお、平成28年3月に連携中枢都市圏の形成に係る連携協約を締結した益城町についても令和8年度中の相互利用の方向で協議中である。

利用状況傾向としては、相手方住民の利用が多く、宇土市の方がとみあい図書館・城南図書館を利用し、次いで御船町・嘉島町・甲佐町の方が城南図書館を利用していることがうかがえる。

[熊本連携中枢都市圏域構成自治体]

関 市 町 村	熊 本 市	荒 尾 市	玉 名 市	山 鹿 市	菊 池 市	宇 土 市	宇 城 市	阿 蘇 市	合 志 市	美 里 町	玉 東 町	南 関 町
		○	○	○	○	○	○			○	○	※
	長 洲 町	和 水 町	大 津 町	菊 陽 町	高 森 町	西 原 村	南 阿 蘇 村	御 船 町	嘉 島 町	益 城 町	甲 佐 町	山 都 町
	○	○	○		○	○	○	○	○	※	○	○

○：図書館相互利用自治体 空欄：未実施 ※：協議中

[各市町村との相互利用の開始時期]

OH28.8月 御船町、山都町、西原村、玉東町、嘉島町、甲佐町、高森町

OH28.9月 宇土市（熊本市民の宇土市図書館利用開始は、復旧工事終了後の12月）

OH28.11月 南阿蘇村

OH29.12月 大津町

OR2.2月 菊池市

OR4.5月 山鹿市

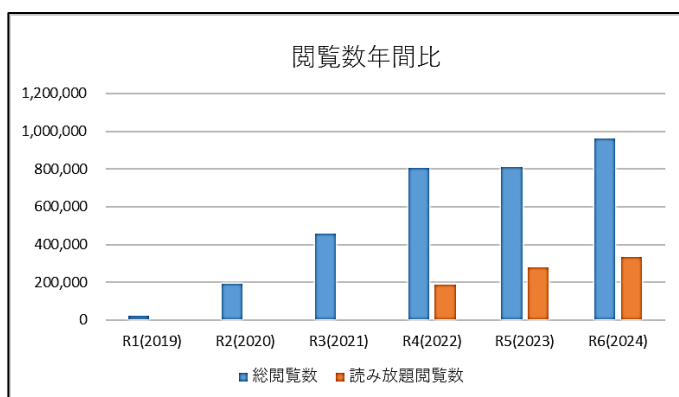
OR5.11月 玉名市、美里町

OR6.2月 宇城市

OR7.4月 荒尾市、長洲町、和水町

電子書籍の充実(読み放題について)

(1) 電子図書館の利用状況



電子図書館の閲覧数は、年々伸びてきている。年齢別の利用状況を見ると、7～15歳である小中学生の割合が、全体の約9割となっている。その中でも10～12歳にあたる小学校高学年の利用は、全体の約6割を占める状況である。

読み放題の閲覧数も年々伸びており、小中学生を中心に、今後も伸びが期待できる。小学校低学年や中学生の利用が増えるようなコンテンツの充実を図る必要がある。

(2) 電子図書館のこれまで

R1年11月 熊本市電子図書館開館

R2年 5月 学校の図書(共通)利用カードで電子図書館の利用を開始

R4年 1月 市立の小中学生に配付されているタブレット端末ホーム画面に電子図書館のアイコンを表示

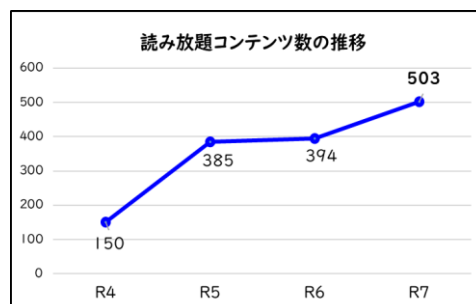
(3) 読み放題について

この読み放題のコンテンツの本は、同じ本に熊本市内のすべての学校の児童生徒が同時にアクセスすることも可能です。友達が読んでいる本と同じ本に簡単にアクセスできます。調べ学習でも同時に同じ本に複数の児童生徒が自分のタブレットでアクセスできます。

一斉読書や調べ学習はもちろん、日々の授業で、ぜひご活用ください。本に親しむことで、子どもたちの心がより豊かなものとなりますようお願いしています。(R7学校向け通知文より)

読み放題のコンテンツの数は、令和7年度、503点となった。読み放題のパッケージを決定する際には、各学校の学校図書館司書業務補助員の先生方へアンケートをとり、参考にしている。

一斉読書や調べ学習の際に活用することを想定し、パッケージを購入してきた。令和6年度には、中学生のために「中学生向け部活」のパッケージを加えた。令和7年度は、「朝読」用を減らし、調べ学習で活用が期待されるSDGs関連のものや歴史関係のパッケージを新たに購入した。



<令和7年度の読み放題パッケージ>

- 1 青い鳥文庫(人気シリーズ作品) 100点
- 2 講談社 朝読おすすめ 50点
- 3 国土社 調べ学習 50点
- 4 理論社 調べ学習 50点
- 5 フレーベル館 かかえぼん 34点 ※組替(新しいもの14点)
- 6 フレーベル館 しらべる・学べる 30点
- 7 フレーベル館 名作えぼん 30点 【New】
- 8 Gakken 図鑑 23点
- 9 メイツ 中学生向け部活 20点
- 10 KADOKAWA まんが科学 30点 【New】
- 11 KADOKAWA 世界の歴史 22点 【New】
- 12 KADOKAWA 日本の歴史 21点 【New】
- 13 汐文社 SDGs 16点 【New】
- 14 メイツ 調べ学習 27点 【New】



○今年度の特徴

マンガのシリーズやイラストや絵・写真などを多く使ったシリーズなどをそろえ、子どもたちが読書に興味をもつきっかけとなるような内容を充実させている。

- ・小学校低学年向け…日本や世界の名作絵本、自然に関するもの、アルゴリズムやプログラミングに関するものなど。
- ・中学生向け…平和学習や修学旅行の事前学習に使えるもの、障害、平和、貧困、人権、思春期の心と体、食品ロス等々、現代社会の課題について考える内容のものなど。

図書装備作業について地域福祉作業所への委託の推進

【経緯】

令和4年4月頃、地元書店から、「書店が窓口になって、地域の福祉施設へ装備委託出来ないか」相談あり。まずは装備作業の可否と練習を兼ねて、除籍図書を提供。

令和5年7月福祉施設で装備作業の目途が出来たため、契約、発注開始。

令和6年11月熊本県書店商業組合より、議会へ請願書提出。請願内容のひとつが、図書装備作業は、地域の障がい者支援施設等へ委託推進することとなっている。

【現状】

地元書店を通じて装備委託を行っている。

装備委託実績

令和5年度 装備委託 3,091 冊 福祉施設委託 206 冊（7%）

令和6年度 装備委託 3,516 冊 福祉施設委託 738 冊（21%）※内、613 冊は簡易装備

【今年度（令和7年度）】

今年度は月 100 冊程度の処理が可能とのことから、年間 1,200 冊委託する予定

【今後の課題】

現在は定型の書籍しか装備できないため、今後委託を拡充するには、更なる技術の習得が必要である。また処理冊数の拡大も急務である。

装備に伴う処理（背ラベルの作成、バーコードやICタグの貼付、書誌データの連携処理等）や、施設と図書館間の配送など、福祉施設ではまだ対応できない業務も多くあり、業務を拡大していく場合は検討が必要である。